

調布まち会だより

No.10 2003 新春号



発行：特定非営利活動法人調布まちづくりの会 / 郵便振込口座：00150-1-136749
〒182-0024 東京都調布市布田1-49-8 飯寄ビル302
TEL&FAX: 0424-88-4022
URL <http://www.annie.ne.jp/~machikai/> E-mail: machikai@annie.ne.jp

調布まちづくりの会ホームページ大幅改訂!

新URL <http://www.annie.jp/machikai/>

調布まちづくりの会の新しいホームページが昨年10月10日から公開されています。是非一度ご覧になって下さい。今までのホームページは電気通信大学福田研究室との共同運営でしたが、この度のリニューアルを機に福田研から巣立ち、当会独自の運営となりました。

今までどの大きな違いは、各部会の簡単な説明とスケジュールをトップページ(表紙)に持って来たこと。トップページを見れば調布まちづくりの会の活動のおおよそがわかるようにしました。スケジュール欄もこまめな更新を心がけ、いつでも最新情報をご案内しています。

また、まちづくりの会以外の団体の催しも掲載していますので、情報をお持ちの方は是非お知らせ下さい。

リニューアル後のアクセス数は1日15程あり、約2ヶ月半の間に延べ1000人以上の方にご覧頂きました。会員以外の方からホームページを見て連絡を頂くケースも増えており、インターネットというコミュニケーション手段の重要性を改めて認識させられています。

直に顔を合わせて話をするという生のコミュニケーションも重要ですが、そういった時間や関係を持ちにくい人をも、まちづくり活動に巻き込んでいくために、ホームページや電子メールといったコミュニ



ケーション手段も、充実させていきたいと考えています。

今回の改訂に伴いまちづくりの会メールアドレスも変更しました。
新メールアドレス machikai@annie.ne.jp

会員募集中

特定非営利活動法人 **調布まちづくりの会**
定例会
日 時 / 毎月第1水曜日 1900- 2100
場 所 / 総合福祉会館2階団体室

調布まちづくりの会は、『市民の手でまちづくりを』という思いの市民なら誰でも参加できる開かれた自主グループです。1994年~1996年に市民参加で策定された「住み続けたい緑につつまれるまち調布 調布市都市計画マスタープラン」づくりへの参加をきっかけに1996年に発足。足。2000年4月には、特定非営利活動法人として新たにスタートし、まち歩きや景観シンポジウムの企画運営などを通して「住み続けたいまち」実現に向け、提言・調査研究・情報提供を行っています。

まちのバリアフリー部会 第1回ワークショップ 02.12/14(土)

「まちのバリアフリーフォトウォッチング」を終えて

今回のワークショップは“フォトウォッチング”のタイトル通り、調布駅と駅周辺の写真を撮りながら現状がどうかを見ておこう！ というものでした。今年2月に京王線連続立体交差事業が、地下方式で都市計画決定され、事業認可、着工へと進む重要な時期を迎えているということへの、まちのバリアフリー部会の最初の取り組みといえます。

当日の進行は、調布駅南口広場集合でそのまま【南口広場ウォッチング：公衆トイレ、児童公園、バスターミナル、樹木など】 【駅構内：南口階段及び車いす階段昇降機で改札へ】 【階段及び車いす階段昇降機で下りホームへ：幅寸法・点字ブロック・喫煙コーナー・売店など】 【階段及び階段昇降機で北口へ：公衆トイレ・改札口・券売機など】 北口解散でした。

当日は外でのワークショップの何よりの応援団、お天気に恵まれた中、参加者は7名で行われました。京王帝都(株)運輸部旅客課から1名、京王帝都調布駅から5名の立会いがありました。

ワークショップで出た意見

【南口公衆トイレ(身障者用トイレをウォッチ)】

1. 車いす利用者にとって内鍵の位置が高い(立っている人の使用位置)。また、手や指の力が弱い人にとって、その内鍵の操作は困難。手のひらでも操作できる棒状のようなものの方がよい。
2. トイレ内で寝泊りしている人がいることが



ある。セキュリティの問題を検討することが必要。ただし、使用時に鍵を開けてもらわなければならないような、普段は鍵がかかっている状態では困る。



3. 手洗い場の鏡は、車いすの人が見やすいようにという配慮から、壁から傾斜して付いているのですが、洋式トイレしか利用できない人など立っている人にとっては見にくい鏡です。傾斜していると車いす利用者にも見にくいので、車いすでも立っていても見ることのできる鏡にしてほしい。

4. 手洗い場の蛇口は、自動で水がでるものとON・OFFで自分で調節できる両方の機能がついたものがよい。

5. 身障者用トイレから「誰でもトイレ」へ。ユニバーサルデザインのもと、鍵や手洗い場に限らず、手すり・ペーパー・流しレバー・緊急時ブザーなどの位置やデザインなどにも検討が必要。

【南口ターミナル】

1. 低床ミニバスの停車位置と歩道の寄り付き部は概ねよい。
2. 点字ブロックの凹凸が車いす利用者には不快な形状であり材料である。視覚障害者にもあらゆる人にも対応するユニバーサルデザインの点字ブロックがないか。
3. 歩道の点字ブロックや樹木などの位置に検討する必要があると感じた。
4. 地下化に伴い、現在の南口広場の樹木はどうなるか。今の状況と同じにはならない。工事の都合上、植え替えとなる。

【駅階段昇降機】

1. 海外の先進的事例では、階段昇降機は利用者本人がいつでも自由に自分で利用できるようになっている。日本では未だそのような事例はない。
2. 数年前に設置された車いす用階段昇降機は、当時具体的には決まっていなかったが、京王線連続立体交差事業までの車いす利用者の暫定対処のものです。自由に利用できない、遅い、故障など、エレベーター設置の必要性を実感している。



【駅ホーム】

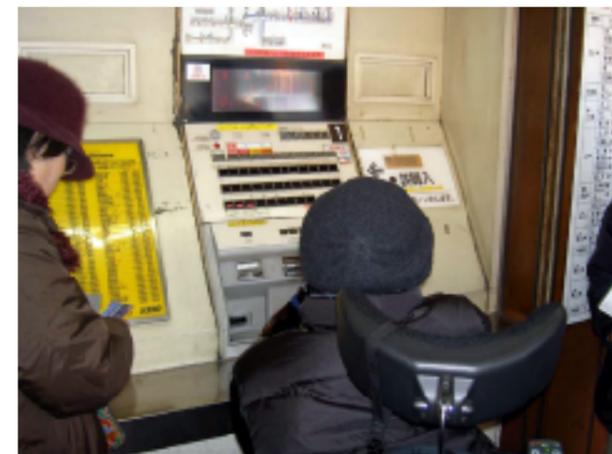
1. 階段を上りきってホームに出て、売店を利用する場合、階段脇手すりと線路際までのホーム幅が1.5メートル程度。視覚障害のある人や車椅子の利用者にとって狭い。心理的にも怖さを感じる。
2. ラッシュ時のことを考えると現況のホームの幅では一般利用にとっても狭いように思う。黄色い線から線路側へ、わずかに傾斜のあるところもあり怖い。

【駅ホーム売店】

1. 売店の売り場の方は、聴覚障害の方には筆記により対応、車椅子利用者には、売店ブースから出て利用者の傍まで近づいて対応しているとのこと。
2. 調布駅ホームの売店の形態は旧来のもので、ユニバーサルな形態の売店もある。

【駅構内トイレ】

1. ホームページの構内案内図では、一応、車椅子対応のトイレとして設定されているが、アクセスや利用度の点からも現況は必ずしも使いやすい状況ではない。



【北口改札券売機】

1. 車いす利用者が券売機を利用する場合、券売機カウンター下に膝下が深く入りきらないので、手が券売機の操作部に届かない。駅舎建物の現況条件などから現在は改良できないでいる。

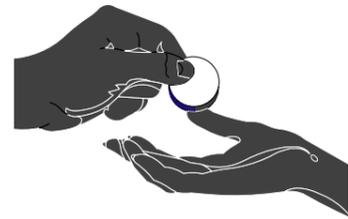
当日はボーナス後の晴れの土曜日からか、また南口ではフリーマーケットもあり、南口・北口・駅構内と、どこも人混みでした。もう少し、南口でいえば、噴水や広場の舗装、道路との段差、ごみ箱など、北口は歩道や道路との段差など、そして大型店舗までのアプローチなどを見て廻る予定でした。

みなさんと“フォトウォッチング”しながら現状と問題点も話しました。新しい駅に向け、京王電鉄の方と細かな点でお話ができる場をもてる約束もでき、また駅が地下になるまでの暫定処置として駅の様子も関心事です。

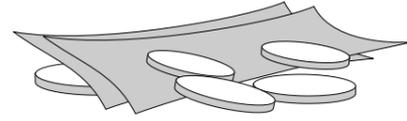
(報告：新井昭子)

まちのバリアフリー部会
ホームページ

<http://www.annie.ne.jp/machka/machno/>



地域通貨懇談会 準備会



「お金」中心の社会を変えよう！

投機のお金が一国の経済をいとも簡単に破壊する現実を目の当たりにして、なにかおかしいとみなさん感じたはずです。不況が長引き、中年男性の自殺者が増えているといえます。たくさんのお金を手にし、物が豊かになったのに心が豊かにならない。幸せが感じられない人が大勢います。「お金」は人を幸せにしてくれるものではなかったのでしょうか。あまりにも、「お金」に依存し、支配されている今の社会を疑ってかかることが必要ではないでしょうか。ミハエル・エンデは「エンデの遺言」でそう問いかけています。

調布で「地域通貨」がはじまる！？

調布まちづくりの会では、2000年12月に経済評論家の森野栄一氏を調布に招き、「地域通貨」の学習会を開催しました。その学習会をきっかけに会員を中心に調布でおそらく最初の通帳式地域通貨「ちょー」がスタートしましたが、リーダー役が職場の異動により調布を離れたこともあり、事実上活動が止まっていました。

調布で「地域通貨」を再スタートしよう！

調布まちづくりの会にあらたに地域通貨部会を発足させ、2002年6月21日(金) 調布の「地域通貨」を考える「調布地域通貨懇談会(仮称)」を立ち上げるための第1回準備会を開催、その後、

月に1回のペースでいろいろなところに呼びかけをしながら準備会を重ねています。この間、現在の地域通貨ブームの火付け役となり、「お金」というものを見直すきっかけとなったNHK放送の「エンデの遺言」を見る勉強会、その後の地域通貨ブームの状況や、銀行などを取り上げた「続エンデの遺言」を見る勉強会も行いました。さらに、

各地で実践されている地域通貨を分担して調査し、より理解を深める作業を続けています。

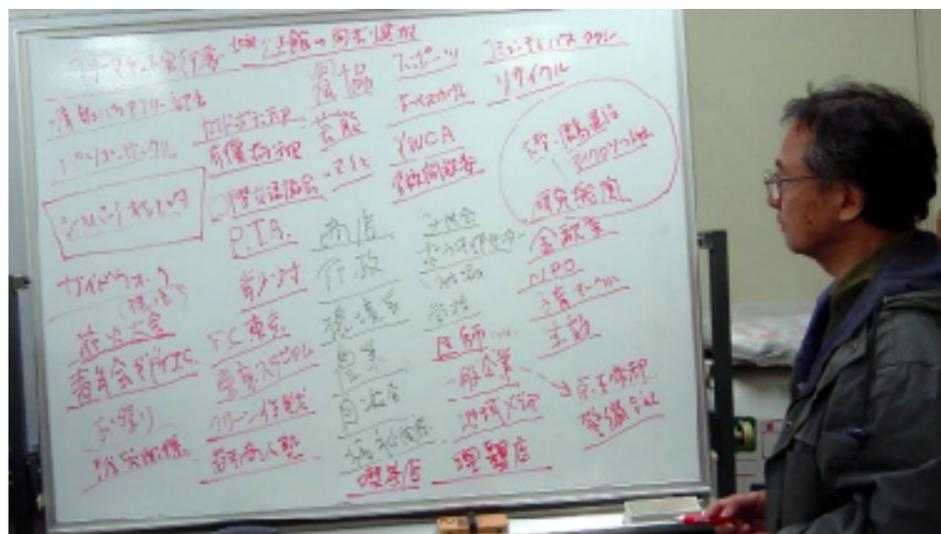
みんなで考えよう、調布の「地域通貨」

準備会では、「地域通貨」をより多くの人に使ってもらえるように、できるだけ多くの分野(福祉関係、環境関係、商業関係、教育関係、農業関係などあらゆるもの)の方のご意見を聞いたり、参加して頂いたりしたいと考えております。「お金」はあらゆる分野のいろいろな場面で使われていますが、それぞれの分野で、「お金」では解決できないことや、「お金」で解決すること事態に問題があつたりします。ここでは詳しく書きませんが、「お金」はつめたいと言われることがあります。心を込めてお礼がしたいとき、「お金」でその意を表すのは失礼にあたると考える人もいます。「お金」でつながっている人は、「お金」がなくなると離れていってしまいます。

一方、「お金」で換算できないために、人に頼めないことがたくさんあります。

介護保険などでも家事労働などで困っている方はたくさんいます。

環境をよくする活動をしなくても、「お金」で評価することになじみません。農作物は相対的に価格が下がっているため、兼業でなければ食べていけない農家がほとんどです。皆さんのまわ



りで問題になっていることのほとんどに「お金」がからんでいませんか。

「地域通貨縁」であたらしいコミュニティを創ろう

もう一つのお金「地域通貨」はそれをつかう私たちが、お互いの信頼やおもいやりの中から生み出すものです。つめたい「お金」に対して、地域通貨は「あたたかいお金」と言われたりしています。都市においては、地縁による地域のコミュニティはないに等しい状態ですが、地域通貨を使おうとする人たちが新たに互いの信頼関係を築くことで、新しい「地域通貨縁」によるコミュニティを創り上げることが出来ると私

たちは信じています。そのような「あたたかいお金」をみんなで創ろうと思っています。

2003年6月スタートに向けて

今後も、さらに話し合いを積み重ね、いくつかの実験も行って、2003年6月にはスタートしたいと考えています。私たちは、この「こころみ」が、あたらしいコミュニティを生み、あたらしい未来、あかるい未来につながることを確信しています。

みなさんの積極的な参加をお待ちしています。

メーリングリストも開設中です。()

次回の調布地域通貨懇談会(仮称)準備会1月定例会

日時：2003年1月18日 19時から21時

場所：調布市総合福祉センター2階 ボランティア活動室

関心のある方、一緒に活動していただける方、初めての参加大歓迎！

おすすめ参考文献(*は是非お読みください)

*岩波ブックレット「地域通貨を知ろう」

西部 忠著 岩波書店 480円

なるほど地域通貨ナビ

丸山真人,森野 栄一共著 北斗出版 1800円

だれでもわかる地域通貨入門

森野 栄一監修 北斗出版 1600円

ボクらの街のボクらのお金

あべ よしひろ著 さんが出版 838円

パン屋のお金とカジノのお金はどう違う？

廣田裕之著 オ・エス出版社 1500円

*エンデの遺言

河邑厚徳著ほか 日本放送出版協会 1500円

エンデの警鐘「地域通貨の希望と銀行の未来」

坂本 龍一,河邑 厚徳編著

日本放送出版協会 1600円

マネーの正体 地域通貨は冒険する

デイヴィッド・ボイル著 松藤 留美子訳

集英社 2500円

メーリングリスト申し込み先:

TEL 0424-87-4385 /

080-5012-5327(尾辻義和)

・問い合わせ: kp5y-ot@asahi-net.or.jp(尾辻)

mail.owak@nifty.com(大脇)

情報バリアフリー部会



昨年まで Communication Port として活動していたグループと合流して4月から新たにスタートした活動です。社会の情報化が急速に進展する中、障害のある人たちがデジタル・ディバイドによる情報格差で疎外されることの無い、情報バリアフリー・アクセシブルな地域社会づくりを目指して活動しています。前身にて、パソコン音声リーダーで読める「電子テキスト版調布市報」をメール配信する全国自治体初となった1年半の実証実験をボランティアで成功させ、4月から調布市広報担当に移管しました。

そうした活動を継承しながら、障害者ITサポートだけではなく、私たちのまちのさらなる情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインをすすめていく提言活動や実証実験にも取り組んでいきます。

障害者のためのパソコン応用講座 「利用しやすいホームページ作成」

11月18日から12月4日まで、障害のある方々自らが情報発信の主体者を目指していただくための、アクセシブルなホームページ作成入門講座を行ないました。初めてでしたがみなさん熱心に課題をこなされました。今後もフォローアップ研修やメールでの添削などを継続実施していきます。なお、本人了解の取れた修了

者の作品の一部は部会のHPで発表予定です。



音声リーダーを頼りにHTMLタグを打ち込む視覚障害のある受講者のみなさん



今年度NHK障害福祉賞を受賞し、12月教育テレビで紹介された「CityLights」副代表Tさん(写真中央)も見学で参加

月例の定例茶話会

サポートを受けている障害のある市民も、サポーターも、メーリングリストに参加していない方も自由に参加し情報交換しているオフラインミーティングです。毎月1回第4日曜、総合福祉センター2階ボランティア活動室で行なわれている「日曜喫茶夢喰馬喰」の喫茶活動の場を利用して、美味しいコーヒーなどやクッキーを注文し、パソコン談義・相談、その他さまざまな話題でおしゃべりしています。

1月は26日(日曜)午後1時30分~4時



調布市地域福祉活動支援事業 ~ 助成金(66万円)決定 ~

2002年度「調布市地域福祉活動支援事業」の助成金(66万円)が決定しました。これは情報バリアフリー部会が今年度事業で申請したものです。

この助成金は、先のホームページ作成入門講座や1月から3月間に予定している障害者のためのITサポーター養成講習会プログラム実施、日常的なメールによるサポートや訪問サポート活動経費、サポート・講習会等で使用するノートパソコンならびに障害者のための音声リーダーやらくらくマウスなどの周辺機器一式の購入費用、まち会事務所・インターネット費用分担金などに充てられます。

障害者のためのITサポーター入門講座

活動に参加していただく市民サポーター(パソコンボランティア)を養成するための入門講座を実施します。1月-3月期の予定です。詳細が決まり次第、まち会HPの部会のページで広報しますので、ご覧ください。あなたの参加をお待ちしています。

サポートを受けたい障害のある方、サポート活動に参加を希望される方 随時受付中!!

問合せ mail.owaki@nifty.com 大脇まで

景観プロジェクト/景観アンケートを実施

調布市からの委託事業で調布市景観ガイドライン策定意向調査（略称：景観アンケート）を行いました。アンケートは以下の冒頭文ではじまります。

「調布市では、都市計画マスタープランに掲げられている「周辺と調和のとれた都市景観の形成」に向け、景観ガイドラインのありようを検討しております。つきましては、調布市の景観（風景・景色、街並み）に対する以下のアンケートにご協力をお願いします。

アンケート期間は11月1日(金)から12月1日(日)までです。」

現在アンケートは、集計・分析中です。市が公表した後、当NPOからも情報を発信いたします。また、Web上では、BBSといわれる書き込みのできる掲示板のようなものを設置して、意見を聴取・展開などをしております。こちらは、現在も参加できます。

景観からのまちづくりBBS.....

http://cgi.anni.e.ne.jp/machi-kai/chousa/keikan_bbs/joyful.cgi

上記BBSより、ご意見を紹介いたします。

・まちづくりの主体はそこに居住し生活する住民自身であること、そして、豊かな生活環境を享受することは憲法13条、25条に由来する国民の基本的な権利であることを確認する必要があると考える。

（引用情報）

・私もまちづくりの主体はそこに居住し生活する住民自身だと思います。だから、住民自身が享受したい生活環境を話し合っ、まちづくりに活かして行くべきではないでしょうか.....?

・行政が作成したお仕着せの計画でなく、国民の基本的な権利を守るため、住民自身がまちづくりをしていく責務を負うべきではないでしょうか.....?

・さんもおっしゃるように、主体は住民自身だと私も思います。しかし、お仕着せの計画ではない、主体的な作り方は願うところですが、なんとなく律することで、漠然と損するような気がする。（特に、高い建物はいけない、なんて律したら、将来、調布から別の場所に移住するとき、高く売れなくなるんじゃないか？）下世話な話で、かみ合っていないかもしれませんが.....律する=不自由と考えるはいけないとは、頭ではわかりますが、ここでは、不自由を予測します。

・一日のほとんどを違う場所で過ごしている勤め人の私にとって、気になるのはやはり職場のまわりの景観やたまに訪れる旅先の景色。

調布市の景観を考える、ってことはまずここは私の町or街という気持ちを持つということだよな。

こういう事を考え始めると子供の頃の調布の景色が思い浮かんでくるのは、あのころは24時間365日ここで過ごしていたから。遠くへ働きにいたり、遠くへ買い物に行かなくて住む社会が作れると、みんなの目は調布に向いてくると思うけど、難しいな。

・私は市内の若葉小の出身です。若葉小の東には国分寺崖線があって、その中を通る通称「若葉の坂」と呼ばれる坂道があります。先日久しぶりにそこを通ると、地主さんのご好意によりその崖線が市に寄付されたと書かれてました。私にとっての思い出の坂道が守られ、ここを通学のために通っている子どもたちと同じ思い出を持てるのかと思うと、とても嬉しく感じました。

子どもの頃の景色は、心の原風景となって記憶に残るのではないのでしょうか。ふるさとと呼べる場所をたくさん残したいです。

・景観や街並みを良くするためには、まず、そういったことに関心を持ってもらうことが必要だと思います。色々な移動速度にそれぞれの景観というのはあるとは思いますが、やはり周囲を眺めながらの移動ということでは歩く速度が一番だと思います。

散歩好きな人が増えれば景観や街並みは良くなるというのはいささか強引ではありますが、全般的はずれでもないでしょう。

そこで提案ですが、地図の類を増やしてもらえたらと思います。きちんとデザインされた地図を辻々に設置するのです。そのために柱を立てたりしては費用がかかりますので住宅の塀などをお願いして付けさせてもらうのです。また、広告を入れて制作費を捻出しても良いと思います。調布を散歩していて楽しいまちにしましょう。

・建築家がしっかりしていれば景観が荒れるなんて無いんじゃないかな?いや、やっぱりクライアント(施主)が問題なのかな?

・良くないものを規制するという方向は限界があるのかもしれないね。出来れば良いものを助けるという方向の方が良いのでは?

・規制をどんなに厳しく設けても、抜け穴は必ず探し出されます。だったら、規制にエネルギーを注ぐよりも、良いものを褒め称え、それがトレンドになるように進めた方が良いと思います。特に、景観は、個々人の美意識が絡む問題であり、個性という価値観を大切にするためにも、過度な一律の規制は避けるべきです。

・やっぱり、景観ガイドラインって規制なんじゃないか。「みんなの目標」って掲げるのは、ガイドラインじゃないんじゃないか。

（報告：鉄矢悦朗）

まちづくり交差点



第3回 【後援：調布エフエム放送】

午後のティーサロン

～音楽と映画への語らい～ **へのお誘い**

日時 / 平成15年1月18日(土)

14:00～16:30

場所 / しゃろ～む(国領駅より徒歩1分)

国領町3-10-14

TEL&FAX: 0424-90-3773

「世紀のエンターティナー」

～フランク・シナトラ～

古きよき時代のアメリカン・ポップスを聞きながら語り合いませんか。誘い合せてお立ち寄りください。

茶菓代 / 500円

定員 / 40人(申込順)

申込先 / TEL 83-9993(森下)

(今後の予定) 同じ時間・会場です。

第4回: 4月20日(日)「イングリッド・バーグマン」

第5回: 7月13日(日)「アルフレッド・ヒッチコック」

相互塾 今後の予定

第36回 / 1月27日(月) 中本正勝さん
田舎と都会のふたまた生活とインターネット(IT)

第37回 / 2月24日(月) 松浦幸子さん
心やむ人たちとこの町で暮らしたい

～不思議なレストランの実践から～

第38回 / 3月24日(月) 吉崎英輔さん
海外旅行談義(その2)

第39回 / 4月28日(月) 佐山綱一さん
日常生活と運動・スポーツ

第40回 / 5月26日(月) 若林 茂さん
元NHK報道カメラマンよもやま話

第41回 / 6月30日(月) 松月謙吉さん
鉄道立体交差

第42回 / 7月28日(月) 横山譲二さん:
山ごもりと野の花

第1回うたごえサロン

「相互塾」と「午後のティーサロン」の一環として、「うたごえサロン」の発足が決まりました。「うたごえサロン」は、1960年～70年に「うたごえ喫茶」として広がったことを、ご存知の方は多いと思います。出席者全員で、アコーディオンの伴奏に合わせて、合唱する集まりです。第1回をしゃろ～む(国領)にて開きます。周りの方に声を掛けて、多くの方の参加をお願いします。

日時 / 2月21日(金)

午後2時～4時

場所 / しゃろ～む(国領)

編集後記

昨年夏、夫と旅したドイツの緑と町の美しさに感動。先人の気持ちを今もこの地の人びとが受け継いでいるからだろう。窓辺の花、うまいコーヒー。私もこんな町にすみたい。「市民力」「地域通貨」で調布のまちも元気にしたいです(ね 江刺益子)

事務局だより

セミナー講師派遣依頼がありました

神奈川県立かながわ女性センター参画推進部人材開発課からの依頼で、女性のエンパワーメントを目指すセミナーに、まち会から3名の会員を講師として派遣する予定です。まち会のホームページでまち会の活動内容を見ての依頼です。「まち会が実践してきたまちづくり活動をとおして行政との協働をどのように現実化するかについて」という内容についてお話することになっています。講座の最終日、2月22日(土)の午後の予定ですが、時間場所など詳細がはっきりしたらまち会のホームページでお知らせします。(発信: 大久保)